

大規模災害時の鴻ノ池運動公園の活用に関する計画の概要

はじめに

■ 計画の目的

能登半島地震の教訓を受け、広域避難の前段階として要配慮者等を収容する施設を設け、より良い生活環境を提供して災害関連死を防ぐほか、支援拠点の充実を図る。

■ 計画の対象となる区域

鴻ノ池運動公園一帯

■ 計画の位置付け

地域防災計画、業務継続計画、受援計画の下部計画

基本方針

二つの機能	広域避難前避難所	防災拠点
	指定避難所等での避難生活に困難を生じている被災者に、 より安心できる生活環境を提供	・物資集積のための拠点 ・応援部隊等の指揮所等のほか、 宿営場所を確保

能登半島の教訓に照らし、特に**広域避難**と**物的・人的支援**に関し、あらかじめ**受入体制**を整えておく。

期待される効果

・避難生活環境の改善 ・広域避難の促進 ・円滑な物資受入れと配送

計画の前提

■ 想定される災害

奈良盆地東縁断層帯地震（**最大震度7**） 南海トラフ地震（**最大震度6強**）

■ 対象地選定の条件

耐震性、広さ、交通アクセスの点において**鴻ノ池運動公園は概ね合致**

■ 収容対象者

収容想定人数（**避難者**）**約2,340人（スフィア基準を確保）**、ほかに拠点業務従事者（消防・自衛隊・応援職員・ボランティア）を収容

■ 運用に必要な人員の確保

配置職員（当初60名）、所管職員、応援職員、指定管理者、協定業者で運用

■ 必要なインフラ

電力の確保（非常用自家発電設備）、水の確保（耐震性貯水槽）

各施設の利用要領

■ 全般

広域避難前避難所（□）を屋内に（一部屋外）、各支援拠点（□）を屋内にそれぞれ展開

■ 屋内施設

中央体育館	中央第二体育館	中央武道場	中央第二武道場
一般避難者 向けエリア。主に広域避難前の避難を希望する被災者を受け入れる。（約580人）	女性・子ども エリア。乳幼児を帯同した女性、保護者と離隔した子ども等を収容（約200人）	救護 エリア。疾患等により、医療救護を要する被災者を受け入れる。（約250人）	要配慮者 エリア（畳葎きを活用）（約310人）

■ 屋外施設

鴻ノ池コート	中央駐車場	鴻ノ池陸上競技場
ペット同伴 エリア（約1,000人）	物資搬入、搬出場所（大型テント展張）	応援職員、ボランティア宿营地、災害VC指揮所（約2,000人）
鴻ノ池球場	陸上競技場外周	補助競技場
自衛隊災害派遣部隊活動拠点（約600人）	緊急消防援助隊陸上進出拠点（車両最大216両）	ヘリコプター等飛行場外離着陸場（大型1機発着可）

施設利用に伴う付加設備

■ 耐震性貯水槽

中央体育館近傍に、貯水容量**120m³**の耐震性貯水槽を設置する。

■ マンホールトイレ

中央体育館近傍、中央武道場前、中央駐車場内に計**15基**（各5基）設置する。

■ 非常用発電機

容量**400kVA**の自家発電設備**1基**を設置するほか、**5.5kVA**のポータブル発電機を計**20台**運用して停電時の機能維持を図る。

■ 防災用備蓄倉庫

必要な物資の事前確保を図るため、**2棟**（2連式、単体式各1）設置する。

今後の予定

耐震性貯水槽、非常用自家発電設備の設置、図上訓練による計画の深化等